令和５年度　　【ダイジェスト版】

全国学力・学習状況調査における香美町の調査結果のまとめ（概要）

香美町教育委員会

１　調査の概要

（１）調査の目的

本調査は、香美町における児童生徒の学力や学習状況を分析・把握し、本町の教育施策の成果や課題を検証し、その改善を図るとともに、各小・中学校における児童生徒への教育指導の充実や学習・生活状況の改善等に役立てることを目的とする。

なお、本調査において測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面である。

（２）実施期日　令和５年４月１８日（火）

（３）調査実施校数及び人数

・小学校６年生：１０校　１２９人

・中学校３年生：　３校　１２５人

（４）調査内容

①　教科に関する調査

〔国語、算数・数学、英語〕

②　生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

２　本町の状況

（１）＜教科に関する調査の状況＞【調査結果の分析の基準】

全国平均正答率を基準とした時の割合	全国(公立)や兵庫県(公立)と比較した時の表現
＋5%以上	上回る
±5%内	同程度
－5%以下	下回る

①　小学校に関する状況

教　科	香美町の結果	
	全国(公立)との比較	兵庫県(公立)との比較
国　語	下回る	下回る
算　数	下回る	下回る

②　中学校に関する状況

教　科	香美町の結果	
	全国(公立)との比較	兵庫県(公立)との比較
国　語	同程度	同程度
数　学	同程度	下回る
英　語	同程度	同程度

③　教科ごとの調査の状況【調査結果の概略】※分析等の詳細は、本体冊子参照

（国語）　　【小学校】

◎　原因と結果など情報と情報との関係について理解したり、目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約することはできている。

▼　目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。また、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるなど、記述式で解答を求める問いに課題がある。

（算数）

▼　学習指導要領の図形領域の理解に課題がある。

（国語）　　【中学校】

◎　文章を読んで理解したことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりできる。

▼　文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることに課題がある。

（数学）

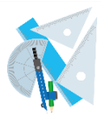
◎数と整式の乗法の計算は概ねできている。

▼　複数集団のデータ分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

（英語）

◎学習指導要領の領域別では、「聞くこと」の「問い」は概ねできている。

▼　社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことに課題がある。



（２）〈教科における領域や項目の状況〉（良好な部分を中心に　一部抜粋）

（国語）　　【小学校】

・原因と結果など情報と情報との関係について理解すること（大問1-一）【知識及び技能】

（算数）

・（　）を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読みとることができるかどうかをみる。（大問3-（１）【数と計算】

（国語）　　【中学校】

・文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができること。（大問2-四）【知識・技能】

（数学）

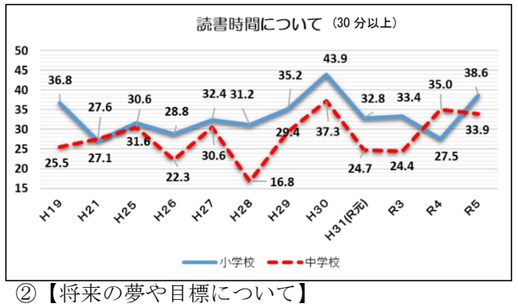
・数と整式の乗法の計算ができること。（大問2）【数と式】

（英語）

・情報を正確に聞き取ることができること。（大問1-（１））【（１）聞くこと】

（３）＜児童生徒質問紙に関する調査の状況＞（一部抜粋）

①【読書活動について】（「３つの町民運動」関連）　〔単位：%、以下同様〕



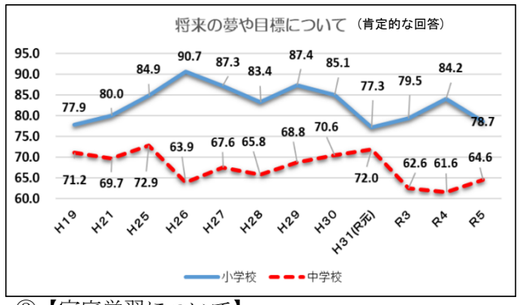
○「読書時間」に関する問いでは、児童は昨年度と比較して増加したが、生徒は減少した。

○　学力とのクロス集計では、児童の読書時間数の多少と平均正答率に明らかな相関関係は見られない。（クロス集計ページ参照）

○　学力とのクロス集計では、読書時間が２時間以上の生徒の国語の平均正答率が、最も高い。（クロス集計ページ参照）

○　今後とも「３つの町民運動」における「読書」の取組を着実に進めていくことが求められる。

②【将来の夢や目標について】

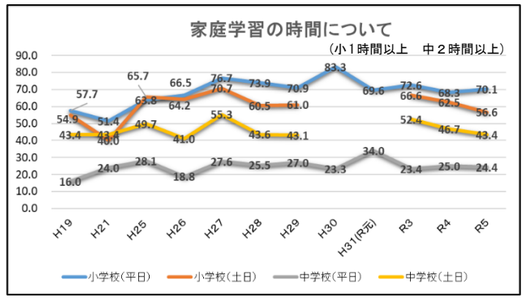


○　今年度は、中学校は微増し、やや回復しているが、小学校はやや減少している。

○　「将来の夢や目標を持っていますか。」の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合は、児童では８０%前後で推移している。一方、生徒では近年６０%台で推移している。

○　今後とも、校種間の連携を図りつつ、一貫化教育の取組の中でキャリア教育の推進体制の整備を図り、児童生徒が、社会の変化を乗り越え、高い志や意欲を持つ自立した人間として、未来を切り拓いていく力を身に付けることができるよう取り組んでいくことが求められる。

③【家庭学習について】



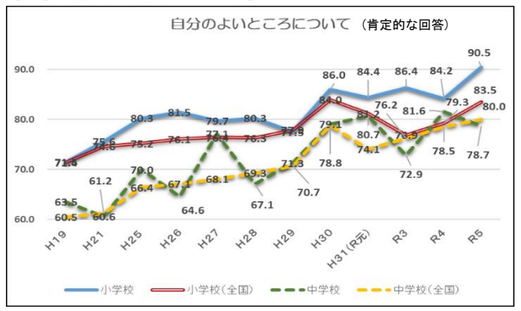
○　今年度、児童の平日の家庭学習時間は微増し、生徒の家庭学習の時間は、わずかに減少している。

○　生徒では、平日の家庭学習時間が「２時間以上」と回答している割合は、昨年度と比較してほぼ同程度であり、依然として２０%台のままである。「家庭学習のきまり」などによる啓発を通じて、家庭学習の習慣化の取組を着実に進めていく必要がある。

○　土曜日、日曜日の家庭学習時間は、児童生徒とも昨年度よりも減少している。

○　今後とも、キャリア教育推進の取組の一環として、校区内の小学校・中学校が連携しあって取り組むことが大切である。

④【自己有用感について】



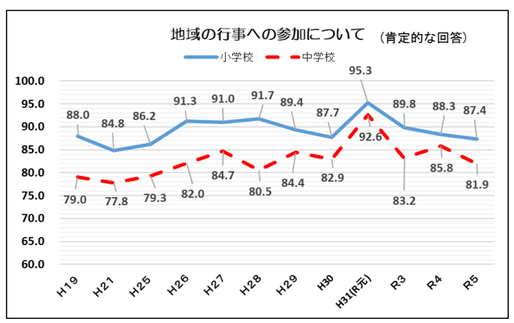
○　児童は全国と比較して自己有用感を抱いている割合は高い。一方生徒は、全国と同程度である。

○　今年度は、小学校では増加に転じているが、中学校では減少している。

○　経年比較全体としてみれば、ゆるやかに右肩上がりになっており、保護者や教師が子どものよいところを褒めたり、認めたりするなどして自信をもたせる取組により、一定の成果が現れつつあると考えられる。

○　今後とも、家庭との連携を図るとともに、授業や学校行事など、様々な機会や場を通して、子どもたちの成功体験を価値付けし、達成感や成就感を持たせる取組を充実していくことが大切である。

⑤【ふるさと意識の醸成について】



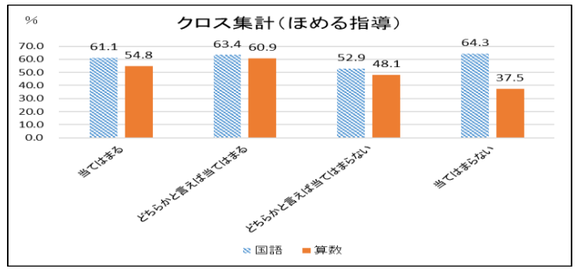
○　児童生徒とも、「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合は高い。

○　今年度は、昨年度と比較して児童生徒はやや低下しているが、長いスパンでみると高い割合で推移している。

○　学力とのクロス集計では、生徒については、肯定的に回答している方が平均正答率が高い傾向にある。（クロス集計ページ参照）

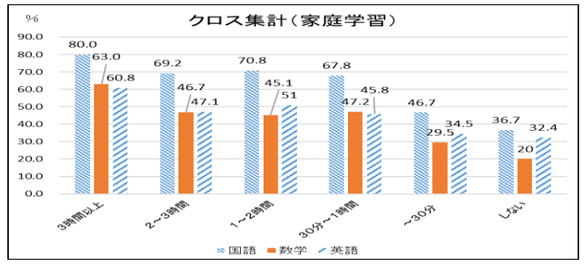
（４）＜児童生徒質問紙と学力のクロス分析から＞（一部抜粋）

＜「ほめる指導」と平均正答率の状況について＞
【質問番号】　小（5）
【質問事項】　先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



〔分析及び考察〕
○　児童は、算数においてほめ認められる指導と平均正答率の間にゆるやかな相関関係が見られるが、国語については、相関関係は認められない。

＜「家庭学習」と平均正答率の状況について＞
【質問番号】　中（17）
【質問事項】　学校の授業時間以外に，普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して、学ぶ時間も含む。)

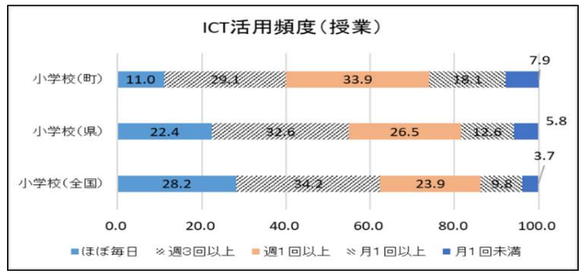


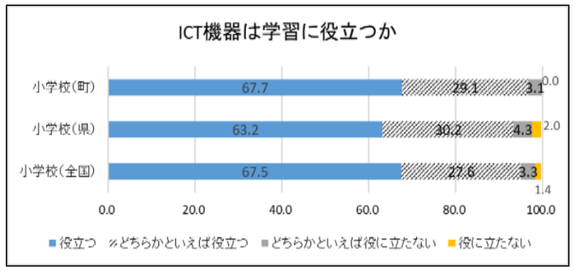
〔分析及び考察〕
○　生徒は、家庭学習の時間と平均正答率との間には、相関関係が認められる。
○　いずれの教科とも「全くしない」と回答している生徒が一定数いることが課題である。

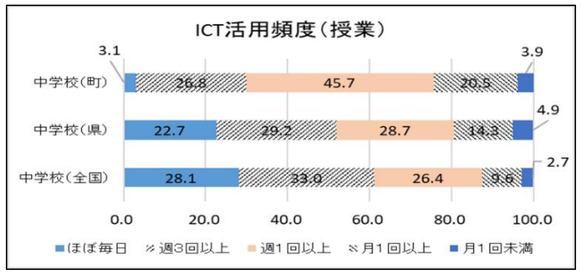
■ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器の活用等について（一部抜粋）

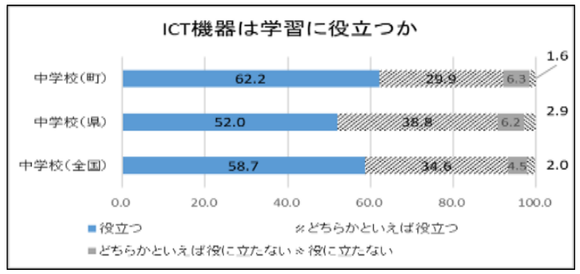
【児童生徒質問紙】
【質問番号】　小（29）　中（33）
【質問事項】　５年生まで〔中学１，２年生のとき〕に受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用しましたか。

【児童生徒質問紙】
【質問番号】　小（30）中（34）
【質問事項】　学習の中でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使うのは勉強に役立つと思いますか。







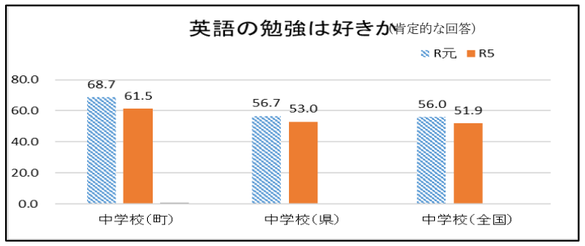


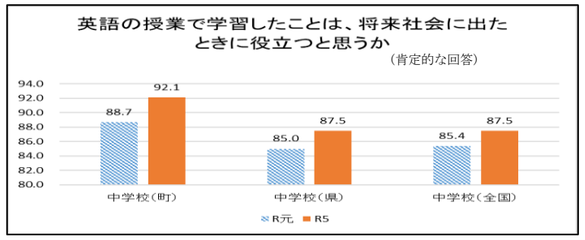
〔分析及び考察〕
○　授業でのＰＣ・タブレットの使用頻度の割合は、児童生徒とも全国、兵庫県と比較して下回っている。
○　ＩＣＴ機器の有用性については、児童生徒とも全国、兵庫県と比較し同傾向であり、有用性の認識度は高い。
○　今後とも、授業の指導方法の工夫改善に向けて、ＰＣ・タブレットの効果的な活用の在り方について研鑽を積むことが求められる。

■英語に関する状況について（一部抜粋）

＜「英語に関する興味・関心＞
【質問番号】　中（59）
【質問事項】　英語の勉強は好きか。

＜「将来、英語の学習の社会での有用感＞
【質問番号】　中（62）
【質問事項】　英語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役立つと思うか。





〔分析及び考察〕
○　「英語の勉強は好きか」の質問に、肯定的に回答した割合は減少している。この傾向は県・全国と同じである。
○　「英語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役立つと思うか」の質問に、肯定的に回答した割合は、昨年度より増加し、県・全国よりも高い。

３　今後の取組の方向性について

学校では

魅力ある授業づくりを！
＜授業実践のポイント＞
□国語科を要としつつ、全ての教科等において発達段階に配慮した言語活動の充実を図る。
□「めあて・学習課題や学習の流れ」の提示、「振り返り」活動を確実に取り入れる。
□学習者主体の視点を強く意識し、指導形態や指導方法の工夫改善を図るとともに、授業の展開の中に、「書く活動」、「発表や話し合う活動」などを積極的に取り入れ、授業改善をすすめる。
□全児童生徒に配備されたタブレットをはじめ様々なICT 機器の活用や、体験的に学ぶ活動などを積極的に取り入れる。
□「ほめる指導」、「認める指導」を大切にする。
□個人カルテの活用などにより、一人もつまずきを見逃さない個別指導を推進する。等

指導力を高め合う組織づくりと学びの連続性のある取組を！
＜実践のポイント＞
□若手とベテランが学び合う同僚性の構築を組織的にすすめる。
□中学校区で「めざす子ども像」を共有し、合同研修会などを通して指導方法や指導体制等の工夫改善を図る。
□９年間を見通したカリキュラムづくりや授業研究や研修会、乗り入れ授業などに取り組むとともに、学習ルールや授業スタイルの共有化などを図る。
□キャリア教育の視点から「家庭学習のきまり」を作成するなど、中学校区で学習への目的意識を持たせる系統的な指導をすすめる。

小規模校ならではの特色を生かした取組を！
＜実践のポイント＞
□オンラインによる研修なども考慮しつつ、事前、事後の打合せや研修を充実させるとともに、他校の教員の実践からも学び合うなど、自らの授業改善に生かす。
□これまでの取組成果や課題の可視化を図り、次の取組につながる検証や評価などに取り組む。
□これまで蓄積された本事業の成果を継承するとともに、課題解決のために設置した「チャレンジプラン総合会議」での情報交換や協議を踏まえ、今後の小学校再編を視野に入れた取組の充実を図る。

家庭、地域では

家庭は子どものよりどころ、すべての教育の出発点
地域の子どもは地域で育てる機運を盛り上げよう！
＜実践のポイント＞
□規律ある生活（早寝、早起き、朝ごはん等）、家庭内での対話の習慣化
□家庭学習の習慣化（「ながら勉強ゼロ」など）
□家庭で読書等に親しむ環境づくり（「親子で読書」、「新聞を読むこと」の習慣化など）
□スマートフォン･タブレットなど情報通信機器利用に関するルールづくり
□努力すること、最後までやり抜くことの大切さを伝える。
□子育て、しつけの中での「ほめる」、「認める」の実践
□地域行事やボランティア活動などへの参加を通した「ふるさと意識」や社会貢献意識の醸成
□「あいさつ運動」の推進や「ふるさとものしり博士」などによる学校支援　等

行政では

学校・家庭・地域への支援を！
〈実践のポイント＞
□各種研修会の実施による教員や各種指導者の指導力等向上への支援
□町ホームページ、町広報誌などによる情報提供
□各種事業の実施（ふるさと教育交流会、ふるさとおもしろ塾、土曜チャレンジ学習、「町じゅう図書館」活動など）
□学校等の施設設備など、教育・学習環境の充実　等

◆問題文や各質問紙の詳細は、国立教育政策研究所のウェブサイトで見ることができます。
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html